



たいへん
よくでき
ました

二月の「きらめきタイム」は初の試みチャレンジ大会です。希望者を募ったところ各学年から十八名が「発表したい!」と名乗りを上げてくれました。やる気のある子どもたち全員に発表する機会を...と思い給食時間の放送も使うことにしました。姿の见えない相手に発表するのはなかなか難しかったと思います。よくがんばりました。今回の四人も自分から進んで立候補しただけあってやる気満々の練習態度で立派でした。

『あいさつは じぶんから』

二ねん二くみ

こい山 かなみさん

小学校に入学して、二年生の前までは小さいこえでしかあいさつができませんでした。

けれど、しゅうだんとつ校がいつしよの人たちが、大きいこえであいさつをしているのを見て「わたしもがんばらなくちゃ」と心にきめました。

その日から、ゆう気を出して校長先生やいろいろな先生や友だちに、がんばって大きなこえであいさつをするようにしました。

だんだんなれてくると、みんなじよの人たちにもいえるようにになりました。

今では、あいさつをするの気持ちもよくなつて、もっともっとしたくなります。また、あいさつをかえしてくれると、もっともっと気持ちもよくなります。

三年生になつても、あい手があいなつてくれるのをまつのではなくて、自分からしていきたいと思います。

あいさつは「自分から」ということがとても大切です。そうすれば本物のあいさつができる人になりますよ。



「自分から」が
すばらしいですね

『あい手にめいわくを

かけないたのみ方』

二ねん二くみ

ふじい けい一三つさん

ほくはいつも友だちとあそびたい時に、友だちが

「だめ」

と言っているのこともしつこく

「あそぼう」

と言っていました。

『なかよしチャレンジ』をしてから、それには気をつけようです。でも、まだぜんぜんできていません。自分ではとても気をつけてい



自分をしっかりと
ふり返れましたね

まず、いろいろなことに自分で気づいたことがえらいなあと思います。相手を困らせないって大切なことですね。

るんだけど、じつわられた時にはやっほひのいせうながおをいしました。だから、ほくは心の中で「次はあい手が「おはな」ならよいと言っぞ」ときめました。そして、次に「あそぼう」とたのんだ時は、しつこく言わずに一回でおわらせました。その時はあい手もじまつていませんでした。その時、ほくは心の中で「じよのままあそび時は、あい手がじまつないようにたのもう」ときめました。

『今でもわすれないテーマ』

四年一組

ふじい ゆづきさん

わたしが『なかよしチャレンジ』で一番心に残った月は九月です。テーマは「親しくない人」でも、区別しないではん活動する」です。なぜなら、みさきの家に行く月だったからです。その時、「みさきの家で使えそう。できるかな…」と思います。

わたしは五はんでした。バスの席決めの時、「わたしはあの子のとなりがいい」とか言ってもめてしまいました。「ゆずったりした方がいいんじゃないかな。このままでもいいじゃあないかな」と思いました。でも、うら山ラリーのはん活動はよかったです。出発前は少し雨がふっていました。私の気もちも不安でした。問題が十三問くらいあって、みんな考えて意見を出せました。わたしも一問目で意見を言えました。

と中でみちをまちがえました。先頭の人は気づかずにとんどん進んでいました。まん中らへんにい

たわたしは、ほかのはんがちがう道から来るのを見て、

「わたしたち、道をまちがえているんじゃないの」

と、みんなに言いました。道をもどって正しい道を通りました。そして、見つからなかった問題が見つかりホッとしました。ゴールするころには雨はやんでいました。はんで協力して楽しくうら山ラリーができてうれしかったです。

みさきの家が終わって二か月がたちました。わたしは今でも時々、このテーマを思い出します。どんな人たちとはんになっても、区別しないで協力してはん活動をしていきます。これからも同じようにしていきたいです。

九月のテーマを今も思い出して大切にしているのですね。これからもいろんな機会に役立てていきましょう。



テーマを具体的な活動に活かしましたね



「おはようございます」と、いつもどおりのあいさつをして学校に入ります。でも、このあいさつが変わってきているように思います。一年生の時は元気いっぱい大きな声で「おはようございます！」とあいさつをしていました。

でも、学年が上がるにつれて、小さな声になってきていることに気がつきました。それに、一年生の時よりもあいさつの数が入ってきました。あいさつができていないというのです。そうやってしまった理由は、はずかしいからだと思います。

でも最近、「あいさつがはずかしいと思う方がはずかしいんじゃないかなあ…」と思うようになってきました。なぜなら、「あいさつをすれば悪いことはないのに、なぜはずかしがるんだろう」と考えるようになってきたからです。しかも、あいさつにはいいこと

があります。例えば、あいさつをすれば友だちとのきずなが深まると思います。また、たくさんの友だちができると思います。友だちとの仲が深まったり、たくさんの友だちができるようになりますと毎日が楽しくなります。

きょくの立場になって考えてみます。わたしが友だちにあいさつをして、もし、目も見ずにあいさつされたら悲しくなります。じゃ、目を見て「こんにちは」といわれて「うれしくなります」。仲間になれそうだな「と思う時もあります。

もう一つあります。それは大人になってあいさつのできない人になるのはいやだからです。なぜなら、あいさつのできる人の方がおとくだと思うからです。あいさつをすれば、友だちもできるかもしれないし、大人になって友だちができるのっていいと思います。

だから、あいさつはお互いの仲を深める言葉なんだと思います。大きな声で言うのもとても大切です。はずかしがらずにあいさつをするのが大きな声であいさつをするのにつながるので、はずかしがらずにはり切ってあいさつを

つめじと思えます。

「あいさつを変えよう」ということはなかなかよく考えましたね。どれもなつとくのできることをばかりです。



あいさつは互いの中を 深める言葉

